

幼児の自称詞の使用（１） —2001 年と 2013 年の調査結果を比較して—

小嶋玲子（桜花学園大学）

目的 筆者は、2001 年に A 市の公立幼稚園（2 年保育）の 11 園の園児 810 名（男子 413 名、女子 397 名）の自称詞使用の調査を行い報告した。（小嶋 2003, 2004, 2005 日教心）。本研究では、2013 年に同様の調査を行い、12 年間の変化を比較検討する。

方法 調査対象者：A 市公立幼稚園（2 年保育）13 園の園児 647 名（男子 345 名 女子 302 名）

調査期間：2013 年 12 月 回収率：100%

調査方法：担任が把握している自称詞を記入してもらう。

結果 回収されたデータの内、日本語を話さない 1 名と自称詞を口にしない 2 名（内緘黙児 1 名）を除いた 644 名（男子 343 名、女子 301 名）のデータを分析した。

使用される自称詞を「一人称（のみ）」、「名前・愛称（のみ）」、「一人称と名前・愛称の混合」「その他」に分類した。「その他」はわずかであったので「一人称」「名前・愛称」「混合（含その他）」の 3 分類で、2013 年の年中児、年長児の結果を男女別に 2001 年の結果と併せて図 1 に示した。また、2013 年の結果を学年間と男女間で χ^2 検定を行い、2001 年の結果と併せて表 1, 2 に示した。

2013 年の結果は 2001 年同様、学年間（表 1）と男女間（表 2）で自称詞の使用の割合に有意な差が認められた。

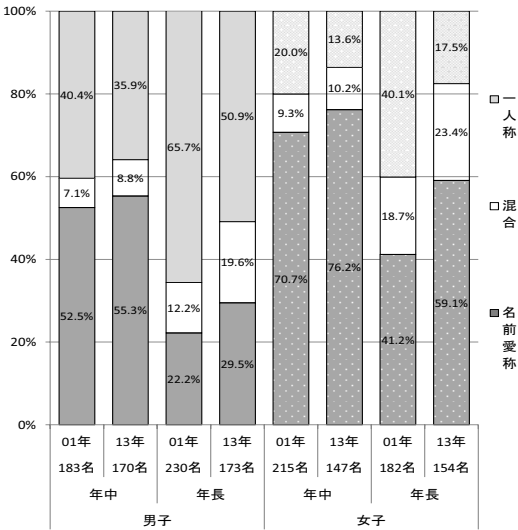


図1.使用される自称詞の種類
2001年と2013年の比較

学年間比較の χ^2 検定後の残差分析の結果、2013 年男子年長児は年中児より「名前・愛称」が少なく、「一人称」と「混合」使用が多い。

2013 年女子年長児は年中児より「名前・愛称」が少なく、「混合」は多く、「一人称」使用

に差がない結果であった（2001 年女子では、年長児と年中児の「一人称」使用の割合に有意な差が認められた）。

男女間比較での残差分析では、2013 年は、2001 年と同様、年中児・年長児で、女子は男子に比べて「名前・愛称」の使用が多く、「一人称」が少ない結果となった。

2001 年と 2013 年の比較

（表 3）では、年中児では男女とも有意な差は認められず、年長児で男女ともに差が有意であった。残差分析の結果（表 4）、2001 年に比較して 2013 年は、年長児男女共に「一人称」の使用が少なく、年長男子は「混合」使用が多い、年長女子は「名前・愛称」使用が多い。

表1 学年間(年長児・年中児)の比較

男子	2001年	$\chi^2_{(2)}=40.794$	$p<.01$
	2013年	$\chi^2_{(2)}=24.987$	$p<.01$
女子	2001年	$\chi^2_{(2)}=35.006$	$p<.01$
	2013年	$\chi^2_{(2)}=11.706$	$p<.01$

表2 男女の比較

年中	2001年	$\chi^2_{(2)}=19.899$	$p<.01$
	2013年	$\chi^2_{(2)}=20.766$	$p<.01$
年長	2001年	$\chi^2_{(2)}=27.088$	$p<.01$
	2013年	$\chi^2_{(2)}=42.722$	$p<.01$

表3 2001年と2013年の比較

年中	男子	$\chi^2_{(2)}=0.938$	ns
	女子	$\chi^2_{(2)}=2.486$	ns
年長	男子	$\chi^2_{(2)}=9.312$	$p<.01$
	女子	$\chi^2_{(2)}=20.569$	$p<.01$

表4 年長児 2001年と2013年の自称詞使用と残差分析結果

(人数% 図1参照)	名前・愛称		混合		一人称		合計	
	人数	残差	人数	残差	人数	残差		
男子	2001年	51	-1.670+	28	-2.060*▽	151	2.990**▲	230
	2013年	51	1.670+	34	2.060*▲	88	-2.990**▽	173
女子	2001年	75	-3267**▽	34	-1.056 _{ns}	73	4.510**▲	182
	2013年	91	3267**▲	36	1.056 _{ns}	27	-4.510**▽	154

▲有意に多い、▽有意に少ない、 $p<.05$

考察 幼児期において男女で自称詞の使い方が異なり、年中児と年長児では、使う自称詞の割合が異なることが 2001 年と同様に確認できた。一方 2013 年の結果は、2001 年の結果と次の点で異なっていた。年中児の自称詞使用には、男女共 12 年間に有意な差は認められなかったが、年長児の自称詞使用には有意な差が認められた。年長児は、男女共に「一人称（のみ）」の使用が減少しており、男子は「混合」使用の増加、女子は「名前・愛称（のみ）」の増加が認められた。2001 年の年長児と年中児に見られた「一人称（のみ）」の使用の有意差が 2013 年女子には見られず、年長児女子の「一人称（のみ）」使用の減少割合が大きいことが特徴である。